

## 第160回 教育研究評議会要録

日時	平成30年4月18日(水) 13時00分～13時55分
場所	第一会議室
出席者	藤原理事, 小路田理事, 小川理事, 井深理事, 成瀬副学長, 三成副学長, 吉村副学長, 野村文学部長, 林井理学部長, 黒子生活環境学部長, 高田人間文化研究科長, 中山, 石崎, 春本, 上江洌, 久保, 松岡, 棚瀬, 三木各評議員
欠席者	今岡学長
列席者	酒居監事, 福田監事, 岩阪事務局次長/総務・企画課長, 太田情報管理活用監, 桑原国際課長, 西田財務課長, 清水施設企画課長, 鱸学務課長, 中窪学生生活課長, 矢野学術情報課長

議事に先立ち、藤原理事より学長が欠席のため学長代理で進行する旨説明

- (1) 構成員の交代に伴い、藤原理事から新任構成員の紹介があり、引き続いて、井深理事から新任列席課長の紹介があった。
- (2) 藤原理事から、資料により平成30年度学内役職者等及び本学の運営組織における教育研究評議会の役割等について確認があった。
- (3) 前回の記録確認。三成副学長から、審議事項.1の記録中「計画及び方針を引き続き推進することに、出席者から特に異議を示されなかった。」の「推進」という表現について疑義があるとの発言があり、審議の結果、「推進」を「検討」に修正することとした。
- (4) 藤原理事から、今年度より可能な限り事務担当課長より審議事項の説明をしていただく旨説明。

### I 審議事項

#### 1. 学内諸規程等の制定について

- (1) 奈良女子大学キャリア形成支援システム運営委員会規則の廃止について  
学生生活課長から、資料1により説明があり、審議の結果、原案のとおり承認し、本日付けで施行することとした。

#### 2. その他

野村文学部長から、継続審議となっていた「地域の高等教育機関との連携」が今回議題として挙がっていない点について質問があり、小川理事から、学長が欠席ということで今回は見送り、次回の会議で審議いただく予定であるとの説明があった。

### II 報告事項

#### 1. 第57回経営協議会及び第215回役員会について

藤原理事から、3月28日に開催された第57回経営協議会及び3月29日に開催された第215回役員会の審議概要について、資料2-1及び2-2により報告があった。

#### 2. 平成30年度国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果の公表について

井深理事から、資料3により評価結果の概要及び分析結果について報告があった。今回の評価は各大学が設定したKPIの進捗状況やPDCAサイクルが適切に機能しているかという点に重点が置かれている点、重点支援②グループでは中位であるが、文部科学省に異議申し立てをして評価が上方修正された事項があり、かつ3つの戦略の評価が全てボーダーライン付近である点について説明があった。続いて小路田理事からC評価となった戦略2について、関係部局に対して評価が上がるような取組の検討依頼があった。

### 3. 第3期中期計画の変更の認可について

小路田理事から、資料4により変更内容について文部科学省より認可を受けたとの報告があった。

### 4. 平成30年度計画について

小路田理事から、資料5により文部科学省への提出内容の報告があり、中間評価前年度の今年度が正念場であるため、所期の目標を超える達成となるような確実な実行について、各部局への依頼があった。

### 5. ホームカミングデーの開催について

小川理事から、資料6により今年度の実施について報告があり、各部局に対して協力依頼があった。小路田理事から、次年度については、本事業の趣旨を鑑みると、卒業後30年の卒業生だけでなく、多くの卒業生が参加するようなイベントとするべきとの提案があり、今後検討することとした。

### 6. 各室等からの報告について

#### 倫理人権委員会

三成副学長から、5月19日(土)14時から15時30分に本学Z306教室にて本学が幹事校を務める奈良県大学人権教育研究協議会による講演会を実施する予定であり、今回は性同一性障害をテーマとしており、今後本学としても対応を考えていくべき課題になるので、多くの教職員に参加いただきたく、後日チラシを配布する予定であるとの案内があった。

### 7. その他

小路田理事から、文部科学省が公募している卓越大学院プログラムの申請の準備を進めており、次回の評議会で申請内容について審議予定であるとの報告があった。

三成副学長より、どのようなコンセプト(定員、学生への経済的支援、資金計画)で申請を検討しているのか質問があり、小路田理事から、募集人員等の概略について説明があったが、審議については次月に行うこととした。

地域との高等教育機関との連携等について、評議員等から以下の発言があり、小路田理事から、次回の評議会では十分に議論ができる時間を確保し、学内教員への情報提供については学長と検討したうえで進めていくとの説明があった。

棚瀬評議員：1法人2大学制度を利用した奈良教育大学との連携や、生活工学や文化工学を柱とした戦略で、生き残ることができるのか。

三成副学長：根本的な質問ができないまま進むことを心配している。奈良教育大学との連携については、評議会で議論を重ね、学内合意を得て進めていくべき案件であるので、次回の評議会は十分に議論ができる時間を用意いただきたい。

以上